

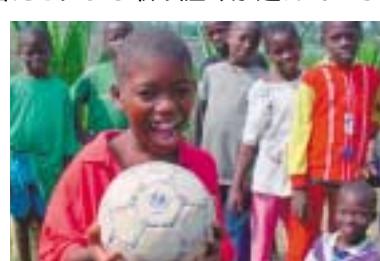
ち ず み せ かい 地図で見る世界の こ 子どもたちのようす

アフリカで いま なに 今、何が起こって いるのだろう？

「アフリカ」と聞いて、みなさんは何をイメージしますか？
8億人近くが暮らし、53カ国もの国があるアフリカ大陸は、全世界の22パーセントの面積を占めています。多様で豊かな土地ながらですが、植民地支配や奴隸貿易など悲しい歴史も経験してきました。今のアフリカには、貧しい、戦争をやっているなどのマイナスのイメージもあるかもしれません。経済の大きさをあらわすGDP（国内総生産）という指標を見ると、アフリカが世界に占める割合は1.7パーセントにしかなりません。現在、特に開発が遅れている“後発開発途上国”と呼ばれている国は世界に49カ国ありますが、そのうち34カ国はアフリカの国です。

今年9月末に、東京で「第3回アフリカ開発会議」という大きな国際会議がひらかれます。アフリカ各国の首脳や、アフリカの支援にたずさわっているさまざまな国や機関、NGOなどの代表が集まって、これからどのようにアフリカの開発に取り組んでいったらよいかを話し合うのです。

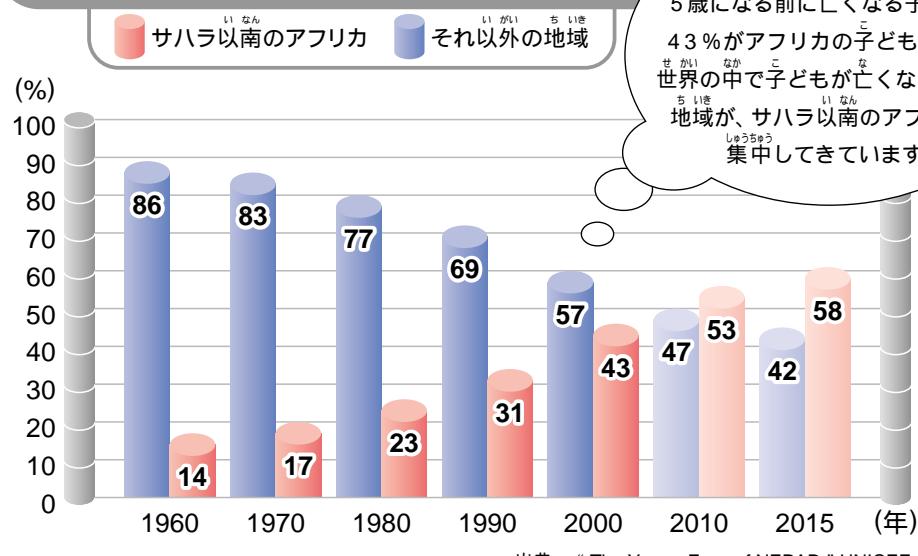
たしかにアフリカをとりまく状況は深刻です。しかし、一方でこれらの問題に対する子どもや若者たちによる取り組みが進んでいるのもアフリカです。今、アフリカでは何がおきているのでしょうか。日本や国際社会にできることもたくさんあります。どんな取り組みがもとめられるのか、考えてみましょう。



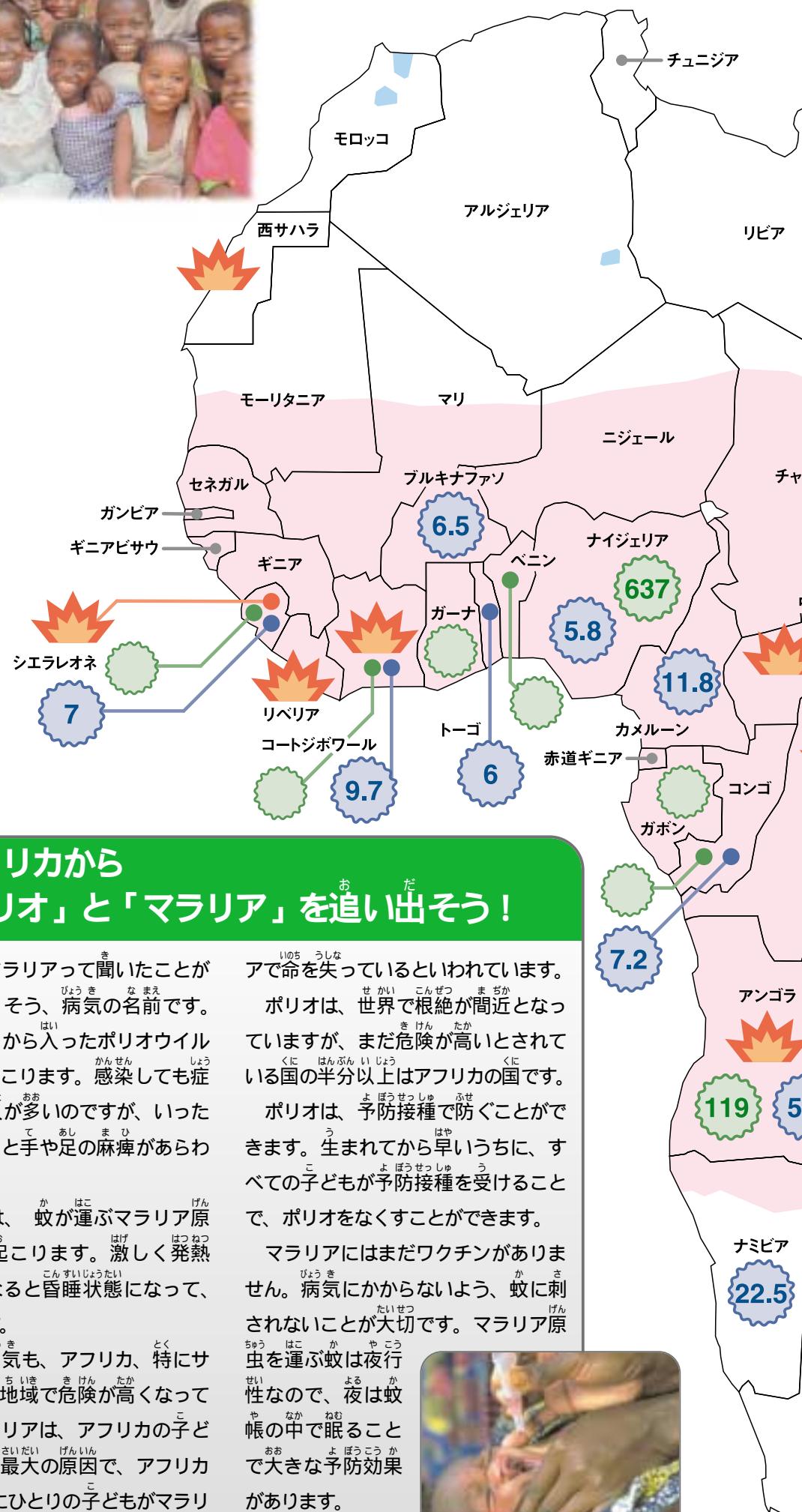
UNICEF WCAR/Kent Page

5歳未満で亡くなる子どもたち

世界の中でサハラ以南のアフリカが占める割合の変化と予想



UNICEF WCAR/Kent Page

モザンビークでのポリオ予防接種キャンペーン
UNICEF/Giacomo Pirozzi

アフリカから 「ポリオ」と「マラリア」を追い出そう！

ポリオやマラリアって聞いたことがありますか？ そう、病気の名前です。ポリオは、口から入ったポリオウイルスによっておこります。感染しても症状が出ない人が多いのですが、いったん病気になると手や足の麻痺があらわれます。

マラリアは、蚊が運ぶマラリア原虫によって起ります。激しく発熱し、ひどくなると昏睡状態になって、命を失います。

どちらの病気も、アフリカ、特にサハラより南の地域で危険が高くなっています。マラリアは、アフリカの子どもが命を失う最大の原因で、アフリカでは、30秒にひとりの子どもがマラリ

アで命を失っているといわれています。

ポリオは、世界で根絶が間近となっていますが、まだ危険が高いとされている国の半分以上はアフリカの国です。ポリオは、予防接種で防ぐことができます。生まれてから早いうちに、すべての子どもが予防接種を受けることで、ポリオをなくすことができます。

マラリアにはまだワクチンがあります。病気にかかるないよう、蚊に刺されないようにが大切です。マラリア原虫を運ぶ蚊は夜行性なので、夜は蚊帳の中で眠ることで大きな予防効果があります。

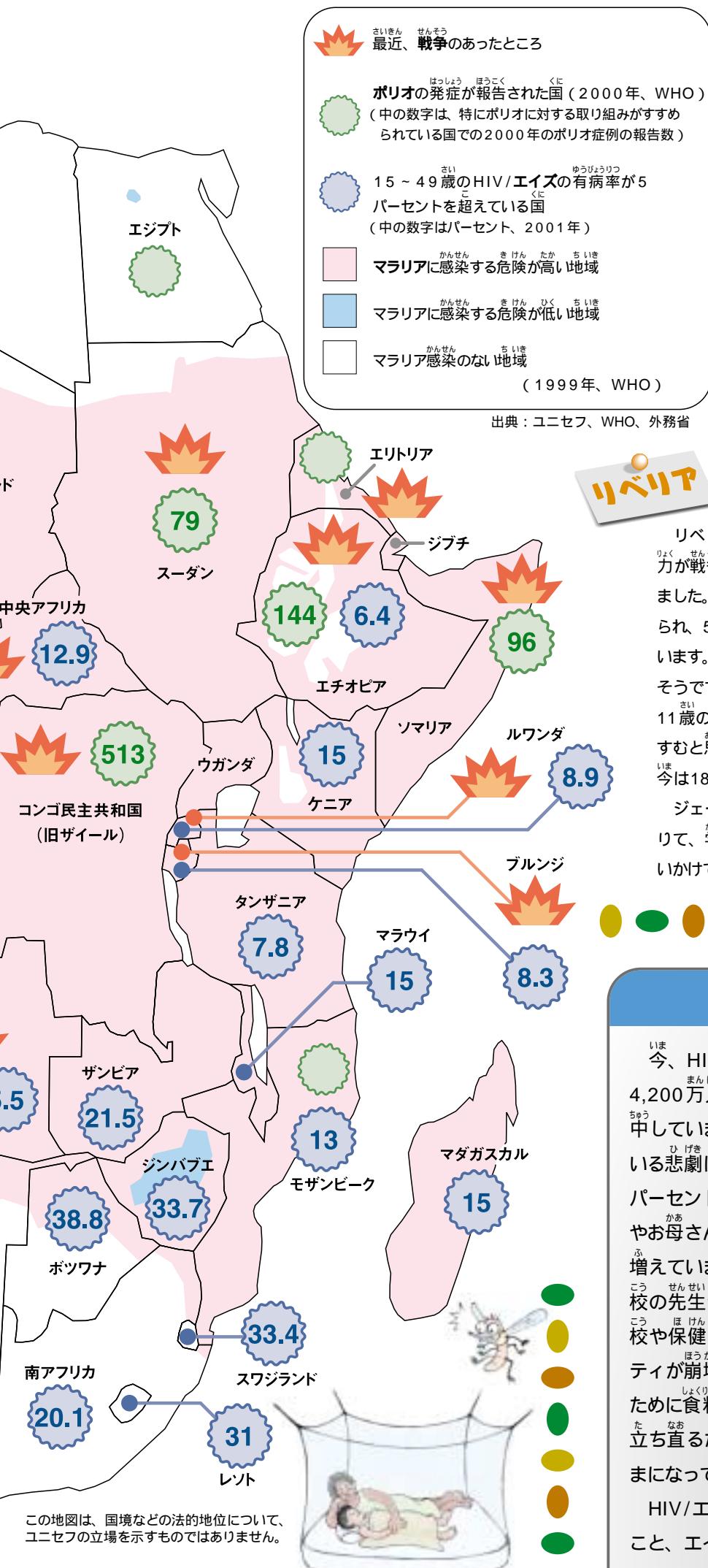
スカウトたちがポリオ予防に活躍！

アンゴラ

の宣伝をする活動をしました。

「ただなんてあやしいわ」とうたがうお母さんに、「本当です。ユニセフがワクチンを提供しているんです」とイザベルは説得します。ようやくお母さんは、「わかったわ。明日は子どもに予防接種を受けさせるようにするわ」と答えてくれました。

このときの予防接種デーでは、300万人以上の子どもたちがポリオの予防接種を受けることができました。アフリカ各国では、大規模な予防接種キャンペーンが次つぎに成功していますが、アンゴラでは、ポリオ撲滅作戦にこうして子どもたちが一役かっています。



日本の技術がマラリア予防に大きな進歩をもたらしています

マラリアを防ぐためには蚊帳が効果的です。殺虫剤について處理した蚊帳を使うことをユニセフもすすめていますが、定期的に殺虫剤で処理しないと効果がなくなってしまいます。そこで、日本の企業が、あらかじめ殺虫剤が織維に含まれていて、定期的に殺虫剤をつけなくても効果がつづく画期的な蚊帳を開発しました。マラリア撲滅のための要請を受けて、この蚊帳をつくる技術がタンザニアのメーカーに移され、アフリカの人々が自分達でこの蚊帳を現地生産できるようになりました。まだ、アフリカが必要とされている量の10パーセントしか生産できないため、これから、この蚊帳をできるだけ安く、たくさん供給できるようにすることが課題です。

平和と安定がなにより必要...

アフリカでは、いくつもの戦争がおこっています。原因は、民族や宗教の対立、貧困や経済の問題、政治の問題などさまざまです。混乱の中で、子どもたちは、予防接種も受けられず、学校にも通えず、肉親を失い、自分自身も兵士として戦争にまき込まれることさえあります。難民や避難民となつて、大変な生活を送らなければならぬ人も何百万人もいます。

アフリカの問題を解決しようとするとき、まず、平和がなければなりません。平和がなければ、何をしてもすべてが水の泡になつてしまふからです。どのようにしたら平和が定着するのか、戦争になる理由は何か、世界の人びとが一緒に考える必要があります。

今年、コンゴ民主共和国で起つた武力紛争で避難民キャンプに逃れてきた人びと
EUphoto via UN #UNE 2769

元子どもの兵士が子どもたちを手助け

リベリアでは、1989年から政府軍と政府に反対する勢力が戦争を続けてきました。どちらにも子どもの兵士がいました。ジェームズは、6歳のころ、反政府軍の兵士にさせられ、5年間、前線で戦いました。たくさん人も殺したといいます。いつも麻薬を与えられていて、痛みも感じなかつたそうです。ジェームズがようやく兵士から解放されたのは11歳のときでした。「もう戦わなくていい、殺さなくてもすむと思うと、とてもほっとした」そう話すジェームズは、今は18歳のたくましい青年です。

ジェームズは、ユニセフも支援しているNGOの助けを借りて、学校に通い、いつかは医者になりたいという夢を追いかけています。そして、今では、ほかの子どもたちに、た

南部スーダンで解放された子どもの兵士たち
UNICEF/HQ01-0088/Stevie Mann

HIV/エイズの悲劇

いま、HIV/エイズにかかっている人は世界におよそ4,200万人います。そして、その7割がアフリカに集中しています。病気の広まりがアフリカにもたらしている悲劇は数え切れません。HIV/エイズの有病率が5パーセントを超えているような国ぐにでは、お父さんやお母さんが次つぎに亡くなり、エイズ孤児が急激に増えています。働きざかりの人がいなくなるため、学校の先生や、保健員などが極端に足りなくなり、学校や保健センターが機能しなくなったり、コミュニティが崩壊してしまったところもあります。干ばつのために食料不足が起こっている国でも、その被害から立ち直るために働ける人がいなくなり、畑は荒れたままになっています。

HIV/エイズの検査がもっと簡単にできるようになると、エイズの発病をおさえる薬が安く手に入るようになること、お母さんから赤ちゃんへの感染を防ぐこと、孤児になった子どもたちを保護すること、そして何より、新しく感染する人をなくすために、子どもや若者がこの問題をよく知ること。すべての対策がすぐにおこなわれなければなりません

シエラレオネ
首都フリータウンにあるユニセフが支援する青少年情報センターは、若者たちが気軽に立ち寄って、ゲームを楽しんだりできる場所です。ここで、若者たち自身がボランティアのカウンセラーとして、HIV/エイズを予防するための知識を伝えたり、話し合いをしています。センターには、人目につかずに入れるHIV/エイズの検査が受けられる場所があり、若者がいろいろな相談をできるようになっています。

ブルキナファソ
ブルキナファソには子ども国会があり、100人の子ども議員がいます。教育を進めようという計画をはじめ記念式の場に出席した子ども議員たちは、政府の役人や国連やさまざまな機関の代表者前に、「HIV/エイズの危険性についてちゃんと情報提供してほしい、きちんとおとなが子どもに教えないければ、私たちは命と引きかえにそれを学ぶことになつてしまう」と訴えました。

ガンビア
ガンビアでは、多くの学校で「チルドレン・アゲインスト・エイズ（エイズと闘う子どもたち）」という名前のクラブがつくられています。中学生を中心ですが、エイズにかかった人の話を聞いたり、さまざまなイベントをひらいたりしています。また、小学生や小さな子どもたちにも、ぬりえを使つたりして、わかりやすくHIV/エイズを伝える活動をしています。

この家族は19歳のお姉さんが世帯主。そのもとで5人の子どもたちが暮らしている。両親はエイズで亡くなつた
UNICEF/HQ02-0314/Giacomo Pirozzi